

高野山電鉄 デニ501型 形式図

1928年に日本車輛が製造した全鋼製車輛

2個ヘッドライトが第一の特徴

昭和初期にふさわしくリベットが多く屋根の深い車体で、
荷物室合造の側面ばかりではなく妻板が前後で違うという、
表情に富んだスタイルをしている

山岳線のため、電力回生ブレーキを装備

台車は汽車会社製 軸数2軸 同系としてデ101型8輛が作られた

高野山電鉄はのち南海高野線となり、本形式も南海デニ501として活躍、晩年は1形式1輛、ヘッドライトも1個に変わり特徴ある面影が薄れてしまった

